

2023 JFFID 日本代表合宿トレーニングマッチ [マッチレポート]



日時	2023年11月26日 (日) 10:00kick off			試合形式	90分
会場	ビーラインフットボールセンター始良			ピッチ状態	天然芝
日本代表		0	0 1set 4 0 2set 6 0 3set 10	10	NIFS
警告・退場	2set	1set	チーム合計		1set 2set 警告・退場
	4	2	6	シュート	23 13 10
	1	6	7	GK	4 3 1
	2	0	2	CK	7 4 3
	5	3	8	直接FK	6 3 3
	5	2	7	間接FK	0 0 0
	5	2	7	(オフサイド)	0 0 0
	0	0	0	PK	0 0 0

【日本】

◆前半



◆後半



【NIFS】

◆前半



◆後半



### 【得点経過】

- 1 2分[NIFS] NO.4 1から NO.4 7にスルーパス。ポケットにてボールを前向きに受けて、草田を抜ききらずにゴール右にグラウンダーのシュート。徳村キャッチミス。
- 2 8分[NIFS] NO.4 1 → NO.4 7 → NO.4 4とデフェンディングサード左から右に展開され、NO.4 4がゴール左にシュート。
- 3 6分[NIFS] NO.4 4から NO.5 5にサイドチェンジ、清水と高木のライン間で受けられ（ペナルティーエリアに侵入したところ）、3人が対応するがドリブルで剥がされゴール右上にシュート。
- 3 7分[NIFS] ゴール前にて大野から徳村への横パス、徳村から高木への左斜め前方へのパスを、NO.5 5がペナルティーエリア内でインターセプト、右隅にグラウンダーのシュート。
- 4 7分[NIFS] NO.4の右からのアウトスイングでのコーナーキック。梅村がヘディングでバイタルエリアにクリアしたところを、NO.9 5がボレーシュート。徳村がはじいたこぼれ球をNO.1 1がワンタッチシュート
- 5 4分[NIFS] NO.9 5から NO.5 4へスルーパス。NO.5 4がグラウンダーでゴール左にシュート。
- 6 3分[NIFS] 左サイドで、NO.1 6からNO.4にワンツース。DF背後に抜け出したNO.1 6が切り返して右足でシュート。
- 7 0分[NIFS] NO.4の右からのインスイングでのコーナーキック。ファーサイドでNO.1 1がヘディングでマイナスに折り返し、NO.3 0がワンタッチシュート。
- 7 2分[NIFS] NO.1 6がポケットにスルーパス。NO.5 4が受けてゴール右上にシュート
- 8 1分[NIFS] NO.1 6がワンタッチでNO.4へ落とし、NO.4がコントロールしてからペナルティーエリア中央へクロス。NO.3 2がワンタッチボレーシュート。

### 【交代】

3 0分 [NIFS]	IN NO. 5 4	⇔	OUT NO. 4 1
3 5分 [日本]	IN 今井	⇔	OUT 松野
3 7分 [NIFS]	IN NO. 9 5	⇔	OUT NO. 5 5
4 5分 [日本]	IN 吉川	⇔	OUT 大野
4 6分 [NIFS]	IN NO. 4	⇔	OUT NO. 3 0
4 6分 [NIFS]	IN NO. 1 8	⇔	OUT NO. 1 6
4 6分 [NIFS]	IN NO. 3 5	⇔	OUT NO. 5 1
4 6分 [NIFS]	IN NO. 1 1	⇔	OUT NO. 4 7
4 6分 [NIFS]	IN NO. 2 6	⇔	OUT NO. 3 2
4 6分 [日本]	IN 小才	⇔	OUT 草田
5 4分 [日本]	IN 山田	⇔	OUT 奥田
5 5分 [日本]	IN 福原	⇔	OUT 佐藤
6 0分 [日本]	IN 犬塚	⇔	OUT 梅村
6 0分 [NIFS]	IN NO. 1 6	⇔	OUT NO. 2 7

60分 [NIFS]	IN NO. 30	⇔	OUT NO. 44
85分 [日本]	IN スピノーシ	⇔	OUT 山田
85分 [日本]	IN 成田	⇔	OUT 犬塚
85分 [日本]	IN 徳村	⇔	OUT 荻野

**ゲームコンセプト** ・アルゼンチン戦に向けてのシミュレーション（全員攻撃・全員守備）

・過酷な状況下でのゲーム運び

#### 攻撃コンセプト

- ・相手状況を踏まえ、優先順位を意識した攻撃（背後・ビルドアップなど）
- ・ゴール前の崩し（中央・サイド）
- ・コントロール・パス・ドリブル・ターンなど判断を伴った技術の発揮

#### 守備コンセプト

- ・1 vs 1 で勝つ
- ・コンパクトな守備
- ・状況に応じた守備ラインの設定

#### **ゲーム内容**

昨日トレーニングマッチがあり連戦の中、NIFS（鹿屋体育大学の社会人リーグ登録チーム。今年度の九州リーグ5位）と対戦した。NIFSは、守備時のシステムが、1：4：4：2、攻撃時には1：3：4：3と流動的なポジションを取っていた。日本は、ゴールキーパーからビルドアップにチャレンジしていた。ボールの移動中に全体がボールサイドに移動して、攻撃の優先順位を意識し、相手を観ながらポジションを取る場面も見られた。そして、押し込まれる時間帯が多かったが、相手のミスを突き、カウンターを仕掛け、フィニッシュまでいけた場面もあった。しかし、ラストパスやフィニッシュの精度に欠き、得点には至らなかった。守備に関しては、前線からの守備、中盤の守備、ゴール前の守備と、ボール状況やゲーム状況に応じて使い分けていた。中盤での守備やゴール前での守備の時間帯が多かったが、粘り強く対応できる場面も多かった。ただ、ゲームが進むにつれて、数的優位であるが、ボールウォッチャーになりマークを見失っていたり、マークする相手が分かっているがボール状況やプレーエリア（デフェンディングサード）に対してマークとの距離が遠く、失点に繋がってしまうこともあった。また、相手をディフェンスのラインの間に置いてしまうこともあった。相手が流動的に動きながら、ワンタッチプレーや有効的な楔のパス、サイドチェンジを駆使してくる中、ボールの移動中のポジション取りが遅れて（後手になって）しまった。攻撃に関しては、ワンタッチやツータッチのプレーとシンプルにボールを前進させることができているときは、オフの選手のサポート状況もよく、チャンスになる場面もあった。1試合を通して、23本のシュートを打たれた中、シュートを6本打てたことは成果である。